

科目担当者氏名		科目担当者連絡先 (メールアドレス)	
田中 慶子			
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
浅川 達人		明治学院大学 社会学部 社会学科	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
社会調査実習	MJGa-120806-0	15人	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：

都心部での子育ての実態について、受講生各自の関心に応じて子育て支援施設でのフィールドワークや、利用者・援助者へのインタビューを行い、比較対象を設定して調査したことで、多様な子育ての実態と多面的な支援の状況を把握することができたのではないかと考えている。子育てや女性の就業、WLBなど身近な問題を、客観的に捉え、考える貴重な調査となった。

II. 調査の企画・設計 (デザイン)

1. 調査のテーマ/領域：

子育て活動をととした地域とのかかわり

2. 調査の内容/概要：

現在の「子育ての困難」に注目し、子育て支援に関わる援助者とその利用者、フルタイム継続の女性、専業主婦や海外での子育て経験者を対象にインタビュー調査を行った。

3. 調査の範囲/対象 (量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入)：

子育てに関わる支援者・当事者を対象とするため、地域の子育て支援施設に依頼し実施した。また母親調査については、受講者の友人・知人等に調査協力を依頼してインタビュー調査の対象者を選定した。

4. 主な調査項目：

家族構成、就業状況、現在の子育ての状況、子育て支援施設の利用状況、子どもや子育てについての意識、夫妻での分担など

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集 (現地調査)の方法：

インタビュー調査では、対象者の指定の場所 (対象者の自宅、子育て支援施設) に出向き、インタビュー調査 (一部、その場での聞き取り、グループインタビューを含む) をおこなった。会話は許可を得て録音している。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：

2012年8月～12月。都区内および一部、山口県、静岡県内で実施。調査員は受講生15名。

7. 収集したデータの量と質への評価 (量的調査の場合は有効回収票及び回収率を必ず記入)：

インタビューは半構造化したインタビューで1時間程度、聞き取りでは15分程度で、全体で30名ほどのインタビューを収集できた。対象者は大変協力的で、充実した内容のインタビューとなった。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析/解釈の方法：

事前に先行研究および個人の問題関心を整理し、仮説を設定した。インタビュー調査ではグループごとにトランスクリプトを作成し、対話の解釈について先行研究を参照しながら議論をおこなった。

9. 調査の成果 (調査から得られた主な知見など)：

都心では先進的な家族や子育てがあるが、子育てを語るロジックは、いまだに「母性神話」に基づく母親の子育てを絶対的と見るまなざしと、「あるべき子育て」を参照された語りとなっており、実態の変化にかかわらず通底する規範は以前と変わっていないことが明らかとなった。

10. 報告書刊行の予定と概要：

社会調査実習報告書Vol.29